



LAYANG LAYANG

8-9月の出来事

サバ州で廃タイヤ回収・処理・リサイクル事業案件化、調査開始

サバ州コタキナバル市では廃タイヤが不法投棄され、それらが発火して火災が発生、ダイオキシン等の有害物質を発生させていることが問題となっています。そこで株式会社アクティー、株式会社廣和コーポレーション、西邦エンジニアリング株式の3社が共同提案した「サバ州コタキナバル市廃タイヤ 処理と廃タイヤ チップ 助燃剤 による廃棄物処理案件化調査」が採択されました。3社の持つ強みである、廃品の回収、廃タイヤ処理、廃タイヤチップ化のノウハウを活かし、不法投棄された廃タイヤのリサイクルに向けた事業化の調査を計画しています。



廃タイヤから出火し火災が発生 (2017年1月)

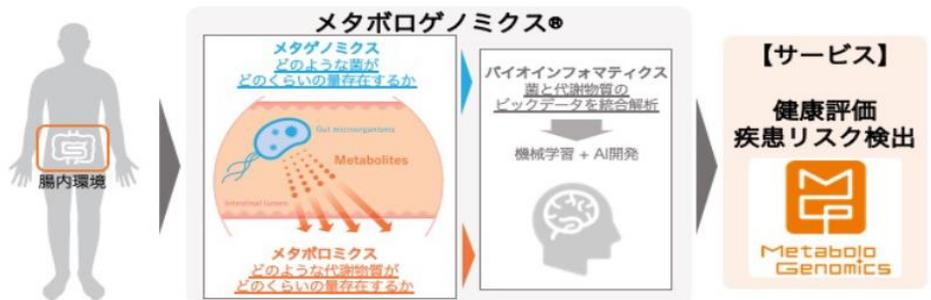
中小企業・SDGsビジネス支援事業「サバ州コタキナバル市廃タイヤ処理と廃タイヤチップ助燃剤による廃棄物処理案件化調査」(2019年第1回公示、採択) 期間:調整中 馬側機関:コタキナバル市(仮) 日本側実施機関:株式会社アクティー株式会社、廣和コーポレーション、西邦エンジニアリング株式会社

大腸がん早期発見へ、新たな検出技術を用いた診断法

マレーシアでは、大腸がんの検出技術が十分に普及しておらず、同国における大腸がんの死亡率は全人口の0.11%と、日本における死亡率0.04%の3倍もあります。政府負担を含む社会的な医療費もかさむことから、早期発見・早期治療の推進等による早急な対策が必要とされています。

そこで、株式会社アクティー、株式会社メタジェンが提案した「腸内細菌叢に基づく早期大腸がん検出技術を用いた大腸がん診断の案件化調査」が提案され、採択されました。

この方法は既存の便潜血などの診断法と比べ、高い確度での早期発見が可能であり、本調査でその競争性の高さを確認できれば、今後マレーシア及び近隣諸国で普及が期待されます。



提案法人技術(メタボロゲノミクス®)の概要図

中小企業・SDGsビジネス支援事業「腸内細菌叢に基づく早期大腸がん検出技術を用いた大腸がん診断の案件化調査」(2019年第1回公示、採択) 期間:調整中 馬側機関:保健省、National Cancer Institute(仮) 日本側実施機関:株式会社メタジェン

JOCVが指導する野球部が日本遠征へ

上戸翔太隊員(野球)が指導するマレーシアプトラ大学野球部(UPM SNITCHERS)が2019年8月6日から2週間、日本遠征を行いました。同野球部は同年4月に設立され、人間力、技術力の向上を目標に日々の練習に取り組んでいます。日本遠征では岡山県の高校、大学に協力していただき、合同練習や練習試合などを行いました。マレーシアでは野球はまだ発展途上である為、今回の日本遠征を経験した学生達がマレーシアで積極的に野球教室を開催したり情報の共有することでさらなる発展に繋がれば良いと考えています。また、日本で学んだ練習を取り入れ、チームの強化に繋がりたいと考えています。



練習試合の様子



合同練習の様子

JICA海外協力隊(JOCV) 野球 配属先:マレーシアプトラ大学(UPM)スポーツセンター

オイルパーム産業の変革を目指して、SATREPS始動

8月19日、マレーシア理科大学（USM）において、SATREPSのキックオフセレモニー及び第1回目の合同調整委員会（JCC）が行われました。本プロジェクトでは、オイルパーム農園における土壌環境解析をもとにした持続的土地管理と、オイルパーム古木（OPT）の高付加価値製品製造の技術を組み合わせることで、OPTを活用した持続的なパームオイル産業の構築を目指すプロジェクトのキックオフセレモニー及び第1回目の合同調整委員会（JCC）が行われました。マレーシアのパームオイル産業は、生産量世界第二位を誇り、輸出総額の36%を占める重要な産業であり、本プロジェクトではそれを持続可能な産業に転換することが期待されています。



オイルパーム古木伐採サイト



USMのDr. Sudesh
(馬側プロジェクトマネージャー)
による説明

※SATREPS:地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム
SATREPS「オイルパーム農園の持続的土地利用と再生を目指したオイルパーム古木への高付加価値化技術の開発」
期間：2019年3月～2024年3月 馬側機関：マレーシア森林研究所（FRIM）、マレーシア標準工業研究所（SIRIM）
日本側機関：国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、株式会社IHI、広島大学

災害リスク評価報告書、スランゴール州首席大臣へ手交



州議会で報告書を受け取るアミルディン州首席大臣(中央左)、泉准教授(中央右)

8月25日、スランゴール州における地すべり・洪水対策を目的とする事業で作成された災害リスク評価報告書が、スランゴール州議会にて東北大学泉准教授より、アミルディン・スランゴール州首席大臣に手交されました。首席大臣からはこのリスク評価報告書により、より精緻で効果的なリスク管理が進むだろうとのコメントも出されました。

防災意識を高めるため、防災関連部局やコミュニティリーダーへの研修や地域住民への啓発等が今後予定されています。

草の根技術協力事業「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化」
期間：2018年6月～2022年6月 馬側機関：スランゴール州災害管理ユニット（DMU）、MJIT 日本側機関：東北大学

MJIT専門家らジョホール州訪問、キムキム川汚染について意見交換

7月8～9日、実施中プロジェクトの一環として、MJIT専門家らがジョホール州を訪問しました。この訪問では今年3月に起こった違法投棄廃棄物を原因とする健康被害があったキムキム川の汚染事案の対応に携わった消防局、市民防衛局、保健局、官民組織などと意見交換しました。保健局担当者の中には、JICAの本邦研修参加者もあり、研修で得た知見を活用し、被災者のためのカウンセリング等を行ったことも確認できました。



キムキム川視察の様子



円借款附帯プロジェクト「マレーシア日本国際工科院強化プロジェクト」
期間：2018年7月～2023年7月 馬側機関：マレーシア日本国際工科院（MJIT）/マレーシア工科大学（UTM）

MJIT、箏・三味線ワークショップを始めとする多彩なイベント

マレーシアでは、累計で約1,600名ものJICA海外協力隊員が活動してきました。

その約1割、160名を占めるのが日本語教育です。現在、日本語教育隊員（JOCV）が活躍しているところが、マレーシア日本国際工科院（MJIT）の日本語・日本文化ユニットです。

これまで5名のJOCVが派遣され、学部生向け、大学院生向けの文法や会話のクラスに加え、本邦企業や当地日系企業の採用の目安となる日本語能力試験N3の取得に向けたクラスを提案・実施する等、内容の充実に貢献してきました。

また、日本文化イベントの企画も進め、学生の日本語学習へのモチベーション向上にも取り組んでいます。日本語・日本文化ユニットでは、月に4回ほどのイベントも企画しています。

9月26日は、箏・三味線のワークショップが行われました。



箏に触れ、先生から手ほどきを受ける 箏の授業を熱心に聞く 譜面を見ながら JOCV、成田先生、Hafiz職員と共に

このワークショップは、当事務所の職員で箏を20年以上習ってきたHafiz職員と、世界各地でコンサートの経験もある箏・三味線奏者の成田先生の2名によって進められました。

参加した学生は、成田先生の日本語のお話をHafiz職員がマレー語で通訳する形式での箏の歴史や演奏の方法等に、また二人による箏と三味線の合奏に耳を傾けていました。

さらには、実際に漢字で標記された譜面を見つつ「さくらさくら」を全員で歌ったり、箏を実際に触れる体験もできるような豪華な構成のワークショップとなりました。「こんな稀な機会、絶対に逃したくないとfacebookを見てすぐ応募しました。とても勉強になりました。感動しました。」「本当に楽しいです。」と目を輝かせて箏に向かう学生の様子が印象的でした。

MJIT日本語・日本文化ユニット及びMJITはfacebookで活動の様子を配信しています。

MJIT日本語・日本文化ユニット → <https://www.facebook.com/mjiiit.jlcc/>

MJIT → <https://www.facebook.com/mjiiitutm/>

JICA海外協力隊（JOCV）日本語教育 配属先：マレーシア日本国際工科院（MJIT）/マレーシア工科大学（UTM）

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら → <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから → <http://www.jica.go.jp>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp